

障連協にゅーす

NPO法人

第 6 号

発行日 平成18年1月10日
 編集 NPO法人
 旭川障害者連絡協議会
 発行者 峰 木 光 春
 住 所 旭川市宮前通東4155番地30
 障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電 話 0166-31-2226



■「おびったまつり」のイベントから（啓北中学ボランティア部曲技団の皆さん）

「障害者自立支援法」で 真の自立となるように

NPO法人 旭川障害者連絡協議会

理事長 峰 木 光 春

障害者団体の各位及び市民の皆様は、明るくお元気で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年四月から障害者自立支援法が施行されます。支援費の利用者一割負担が経済的に弱い障害者に大きな打撃となることが予想されています。この障害者自立支援法が本来の趣旨に沿って進むべく、不合理な面は、政省令の改善など全国組織を通じて強く働きかけていく必要があると考えます。障害者福祉センター「おびった」は市の指定管理者として委託管理を受けていますが、よりよい市民サービスと経費節減に努めているところであります。

おびったの入館者数は今年度は年間十五万人が予想され、毎年一万人程増えており特に和室や体育館の利用者が伸びております。

障連協でも地域活動として、「おびったまつり」を開催し入場者二千人以上、半数以上は一般の市民の方で地域住民との交流や障害者の授産製品の売り上げも好調で我々にとって勇気づけられるものです。

今年は「おびった」の目玉施設である水泳プールのイベントを考えてはという意見もあり検討して参ります。

本年も障害者の自立と社会参加に向けて、「おびった」を核として一層の福祉向上が図られるように努めて参ります。

「障連協のうごき」(平成17年7月～12月)

平成17年度 旭川市障害者スポーツフェスタ

と き：平成17年7月31日(日)午前9時30分
と ころ：旭川市大雪アリーナ(旭川市神楽4条7丁目)
主 催：旭川市
旭川市障害者スポーツフェスタ実行委員会
事業実施者：NPO法人旭川障害者連絡協議会

真剣に会場盛り上がる

大会スローガン

風かおる大地に集う今日の日が
ぬくもりかよう豊かな街に
育てて行こう福祉の輪

初夏の太陽のもとで、大会実行委員長富田和信氏の発声で、スローガン斉唱され会場に反響して更に、大会を盛り上げました。

プログラムの内容も工夫され、フライングディスクやピーンバック投げなど、記録を残す競技を午前中に行い、個人・団体(玉入れ)などは比較的観客の多い午後に行いました。

アトラクションには、スターキッズバトンクラブの皆さんが熱演を披露してくれました。殊に、アトラクションに出演する子供たちの家族や友人の応援が多く、二階右側の観客席が一時的に一杯になった事は印象に残りました。(しのだ)

参加者の一言

- * 雨上がりの朝で湿気が高く天候がどうなるか心配でしたが、カラリと晴れたスポーツ日和となりました。
- * 毎年この大会スローガンを聞く度に思い出すのは、日章小学校の校庭を借りて、障害者の体育大会をしたことを思い出すのです。「風かおる大地に集う今日の日が」…イヤー思い出しますネ、でも、室内の大会にふさわしいスローガンを募集しなければ…ネ。
- * 障害者のためにプログラムされた競技内容とはいえ、結構難しい競技も多く、私もピーンバック投げに挑戦しましたが、思ったよりも飛ばず、投げ方のコツのようなものをつかむ前に競技が終わってしまいました。他の競技も同様で、カンタンに出来そうなものでもやってみると意外に難しいと感想をもらっていました。それでも皆さんそれぞれの競技の結果で満足した様子でした。

■ 障害者スポーツフェスタ



1



2



3



4

No	写真の内容紹介
1	真剣に狙ってフライングディスク
2	スターキッズバトンクラブの可愛い皆さん
3	力いっぱい！玉入れ
4	けっこう難しいぞぉ～！スラロームリレー

平成17年度 旭川市障害者球技大会

と き：平成17年11月20日(日)午前10時
 ところ：旭川市障害者福祉センター「おびった」
 (旭川市宮前東4155番地30)
 主 催：旭川市障害者球技大会実行委員会

平成17年度旭川市の障害者球技大会が障害者福祉センター『おびった』で平成17年11月20日に開催されました。以前の球技大会は、卓球に限られていましたが、今年の大会は卓球・ボッチャ・フライングディスク等の種目で競いました。中でもボッチャの人気は格別で3人1チームの31チームで参加して激しい鏖^{つば}ぜり合いが見られました。

旭川障害者球技大会競技結果

■卓球 上肢体幹の部

優 勝	脇坂 明弘
準 優 勝	朝野 司郎
3 位	該当者無し

■卓球 弱視の部

優 勝	川村 剛秀
準 優 勝	三浦 秀人
3 位	該当者無し

■卓球 聴覚・知的の部

優 勝	吉田 英子
準 優 勝	川村 健二
3 位	池田 博道

■卓球 下肢体幹の部

優 勝	中野 末治
準 優 勝	川尻 朝雄
3 位	桐越 好

■卓球 オープン戦

優 勝	中野 末治
準 優 勝	川尻 朝雄
3 位	池田 博道

■フライングディスクの部

優 勝	藤井 のぼる
準 優 勝	小坂 良成
3 位	矢野 春子

■ボッチャの部(3人1チーム編成による)

優 勝	旭川美景園チーム 小山武・清野恭弘・今野喜志夫
準 優 勝	旭川美景園チーム 佐野明・藤田典正・上野滋
3 位	旭川リハビリ友の会チーム 河内昭・篠田良雄・大平敏幸
3 位	旭川身障者肢体協会チーム 工藤佳代子・小林敬子・藤野敏枝

■球技大会



No	写真の内容紹介
1	人気競技のボッチャ
2	毎年恒例種目の卓球
3	集中力で狙うフライングディスク

平成17年度障害者週間記念事業

旭川市主催の平成17年度「旭川市障害者週間記念事業」が12月2日(金)、3日(土)にかけて旭川市障害者週間記念事業実行委員会により行われました。雪の降る中、2日は「おびった」周辺の商業施設や公共施設前で街頭啓発用のチラシ約1700枚が配布されました。3日の記念事業は午前10時より午後5時まで「おびった」体育館で行われ、参加者は300名を越えました。午前中は映画「機関車先生」の上映、午後1時から「障害者自立支援法 - 社会保障はこう変わる」をテーマにシンポジウムが開催されました。

基調報告はNPO法人DPI日本会議副議長（DPI北海道ブロック会議議長）の西村正樹氏



で、90ページにおよぶ資料にそって「障害保健福祉施策の現状」「障害福祉サービスの利用者負担の見直し」「障害者施策と介護保険との関係」「当事者から見た障害者自立支援法の課題」などが話されました。特にこの法の問題点として市町村審査会のありかた、要介護認定を基にしたサービス尺度、自立支援給付の義務的経費の上限、低所得者からも10%の負担（応益負担）、扶養義務の強化、障害者自立支援法では障害者の権利は守られないなどがある、「今後の市町村の障害者福祉計画にこれらに対する我々の意見を反映し、共同の運動を強化していこう」と力強く結ばれました。

続いてのシンポジウムは提言者に山平久雄氏（医療の立場から/道北勤医協一条ケアセンターディサービス所長）、稲垣則子氏（運営の立場か



ら/障害者地域共同作業所「バリアフリー」代表）、林優子氏（利用者の立場から/あかしあなかまの自治会会長）、長谷川優司氏（行政の立場から/旭川市保健福祉部障害福祉課課長）、の4氏が着席され、助言者は高田哲氏（市立名寄短大教授）で、担当のゼミをさておいての出席でした。はじめに林氏から「10月31日に成立した障害者自立支援法は、全国で慎重に審議をしてほしいという声が沸き起こっているにもかかわらず強行採決され、とても残念です。最近『障害者だからなんでも無料ではなく、社会の一員として支払うべき』という意見を聞きますが今の実態では無理です。払いたくないのではなく、払えないのです。なぜ応能負担ではないのでしょうか」。障害者作業所を運営している稲垣則子氏は「利用者が利用料を支払って通所できるのでしょうか。一般の働く人たちは職場に利用料を納めていますか。もし利用者が通所できなくなったとき、利用者のいない施設・



作業所はどうなるのでしょうか。今後旭川市にもこの現状ご理解いただき、利用者に重い負担をかけることだけは避け、生きるための権利と自由をいただきたい」。また医療の立場から山平久雄氏は「社会保障基礎改革の本質は何か。今後国の社会保障費用は削減され、国民の負担が増える。介護保険制度はそれら改悪されていく社会保障制度全体を引っばって行くフロンランナー＝トップ集団。10月からの食費・居住費自費化にともなう世帯分離の相談が増えているが慎重に対応。応能から応益負担に変わってきたが障害者や低所得者の生活を守れるのか」など厳しい深刻な現状についての提言が続きました。最後に旭川市から長谷川優司氏（旭川市保健福祉部障害福祉課課長）が「旭川市の支援費制度の実施状況」、「障害者自立支援法の行政の当面の対応（1．公平、公正な介護サービスにかかわる審査会の設備、認定調査、2．制度についての通知、3．障害福祉計画の策定、4．地域生活支援事業に対する旭川市の方針）」などが提言されました。助言者の高田哲氏からも4人の方々の提言へのまとめと感想が述べられた後、- 障害者「自立支援」法をめぐって考えたこと - とサブタイトルがついた「障害を持つ人の権利を発展させるために」のテーマで約40分間ほど小講演していただきました。「障害とは何か」、「今日の社会を考える - 新自由主義についてなど」、「基礎構造改革路線と障害者『自立支援』法」、「今後の運動の視点として」などわ



かりやすく話され参加者は熱心に聞き入っていました。

今回のシンポジウムにあたり6人の方々の提言や講演資料を250部作成し、受付で配布しましたが50部以上不足し、今後入手したいとの要請があいついで寄せられました。このことは当日も激しい雪降りであったにもかかわらず300名を超える参加があったことと合わせて障害者自立支援法への関心の高さが伺えます。

また共同作業所作品展示即売は3日当日体育館内で、11月25日から12月2日までは「おびった」1階ロビーで行われました。

講演資料は増刷し、障連協事務局に置いてありますので、ご希望の方はご連絡下さい。

(TEL 31-2226)



NPO法人 旭川視力障害者連絡協議会

障連協 加盟団体の動き

■ 旭川視力障害者福祉協会

会 長 瀧田 幸明

旭川市東光15条4丁目3-4

TEL/FAX 54-7137

仲間の快挙に拍手！おめでとうございます！

瀧田 幸明氏 第56回 身障者下山賞受賞！！



平成17年10月19日に旭川視力障害者福祉協議会会長 瀧田幸明氏が第56回身障者「下山賞」を受賞されました。

平成17年度は全国から瀧田会長他4氏が受賞されました。受賞者は旧国鉄に勤務中に重傷を負ったり過労で視界(力)を絶たれるなどのハンディを乗り越えて社会復帰し、地域の福祉活動などに貢献して来た事が高く評価されての受賞で有ります。

表彰式は東京麹町の弘済会館で行われ、瀧田氏は夫人同伴で出席しました。ご来賓としては国土交通省、厚生労働省、JR各社鉄道弘済会

の関係者などが出席され、同協会の小坂一郎理事長から一人ひとり賞状が手渡されました。

受賞者のみなさんはそれぞれの地域勤務先で立派に仕事をされ、地域においても障害者の模範として活躍されて来た権威の有る身障者の仲間です。「核となってバリアーのない社会の実現に一層の力になって下さい」と言う言葉が小坂理事長より有りました。



(社)旭川身体障害者福祉協会

会長 荒川 繁雄

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

2005年も余す処1ヶ月余となり、当協会として去る5月15日に行われた通常総会において決議された事業計画に従い役職員一丸となってその遂行を行っており、多くの会員皆様及び関係各位のご協力の賜と深く感謝と御礼を申し上げます。

当協会の障連協にゅーす7月10日発行以降の行事の経過等をご報告させていただきます。

7月9日10日開催の第43回全道障害者スポーツ大会が室蘭市他西胆振管内8市町村で行われ当協会参加選手は素晴らしい好成績を修められました。下記の通りです。

陸上競技		水 泳	
1位	加藤 弘	1位	由井 敏道
1位	藤井 光儀	1位	芳野 輝政
1位	棟方 勲	個人戦	
1位	佐野 明	1位	加藤 健二
サウンド・ブルテニス(STT)		3位	大田 順子
1位	池田 康男	卓 球	
2位	加藤智津子	1位	芳野 博子
フロアーバレーボール		ボーリング	
3位	(団体戦)	1位	保坂 昌徳

平成17年度障害者社会参加総合維持事業(生活訓練事業)

8月7日(日)おびった会議室1において開催
170名の参加をいただきました。

イ. 一般講演

骨と関節の健康について

高桑整形外科永山クリニック 院長先生

ロ. シップの貼り方教室

久光製薬(株)の方より

ハ. 基調講演

「生きる心について」著者 山田伽心先生

以上の方々のご講演をいただき 非常に有意義に終了させていただきました。参加者及び関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

協会の年中行事であります、研修旅行を9月18日実施致し北竜町のサンフラワーパークホテルを会場にして会員114名の参加をいただき盛会に又楽しい一日を過ごし交流を深めて参りました。

最後に第54回全道身体障害者福祉大会が美唄市において10月22日～23日の両日にわた

り開催され全道より780余名の参加により第1日目は全体会議・分科会・2日目は全体会議式典・表彰式を行い北海道知事及び多くの来賓の出席をいただき提出議題・大会宣言(案)決議(案)を万場の一致をもって承認され明年の次期開催地登別市長代理による挨拶により大会を終了いたしました。

当協会より40名の会員の参加をいただき、式典に続き表彰式において北身協協会長表彰3名が受賞されました。

自立更正 平瀬 涼子

援護功労 藤井 卯太郎

援護功労 川尻 朝雄 以上3名

以上をもって(社)旭川身体障害者福祉協会の行事の経過をお知らせいたします。

財団法人北海道難病連旭川支部

支部長 工藤 フサ

旭川市5条通5丁目1690-1
TEL・FAX 24-7690

■ 8月4日「花火を観る会」

8月4日、午後6時30分から事務所の屋上で「道新花火大会」を観る会を開催、心配された天候も夕方には晴れ渡り、40名ほどの参加者で盛り上がりました。今年は近くの街路樹の木が剪定され、見やすくなった花火に歓声を上げ、生ビールが一際美味しさを増した花火大会でした。

■ 8月6日・7日「難病患者・障害者と家族の全道集会」

「最後まであきらめない！」をスローガンに、難病患者・障害者といっしょに日本ハムファイターズを応援する1000人集会在「全体集会」



という今までにない形の全道集会。全道各地から札幌ドームに集まった難病患者・障害者と家族、ボランティアを含め850名余りの大応援団。旭川からは、私設応援団「勝手連覇夢讃道」の20数名の皆さんのサポートを受けながら100名程の参加者が有りました。残念ながら、日本ハムは負けましたが、最後の最後まであきらめないプレーに勇気と感動をもらった1日と成りました。

■機関紙「なんれんあさひかわ」の発行

7月10日発行/63号、11月10日発行/64号を各2300部発行、会員・家族、関係機関団体・個人の皆様に発送致しました。

■12月18日「第19回チャリティークリスマスパーティー」の開催

260名以上の難病患者・障害者と家族及び一般参加者がパレスホテルに集合、スイングメッセンジャーズオーケストラの演奏やダンスタイム、お楽しみ抽選会などを楽しまれました。毎年多くの企業や病院、商店や個人の皆様からご協賛頂き、日頃外出機会の少ない難病患者・障害者にとって楽しみにされている私どもの最大のイベントです。

旭川アカシア会

代 表 青木 利子
旭川市4条通21丁目左7号
TEL/FAX 32-7631

第5回 障害者医療講演会

「現代人のギャンブル依存症について」を終えて

11月20日(日)大雪クリスタルホール・大会議室にて開催した「現代人のギャンブル依存症について」の講演会を無事終える事が出来ました。

昨年の「現代人のうつ病について」に続き、ギャンブル依存症というまさに現代病とも云える大変に重い、重要なテーマを選び、準備段階から役員一同身が引き締まる思いがしました。こんな難しいテーマの講演を聞きに来てくれる人がいるのか開演するまで不安で一杯でしたが、新聞やNHKでとり上げていただき、また医療関係者が患者さんに直接勧めて下さったりして、130名を超す市民の方々が参加してくれました。

講師の北海道立精神保健福祉センター所長・田辺等先生の話は、とてもいいねいので解りやすく、「依存症」とは何かを知る事が出来ました。ギヤ

ンブルによって出来てしまった借金(合併症)を家族が何とか返したとしても、依存症が治ったわけではないので、また同じ事をくりかえしてしまう。ギャンブル依存症とは病気なんだと、まずは本人が自覚をし、生き方を自ら変えて行かなければならない。グループカウンセリング等を通して、自分を語り仲間の声を聞き自ら回復してゆく事が治療の始まりという事です。

残念な事に旭川にはこの様な自助グループがまだありません。一日も早くグループを立ち上げ、一人でも多くの方が、家族が依存症という「やまい」から立ち直れるようになればいいと思いました。

さて、来年の「テーマ」は何にしようか、皆さんの声をお聞かせ下さい。



旭川身体障害者肢体福祉協会

会 長 稲垣 則子

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

新しい年を迎えて

明けまして お目出度うございます。

各団体の皆様にとりまして、すばらしい新年をお迎えのことと思います。

旭川身障肢体福祉協会の、17年度の事業行事もなにげもなく終わることが出来、うれしく思っています。

昨年を振り返ってみますと、自立支援法、削減、不況と言った言葉で明け暮れた一年であったような気が致します。

今年も色々なところで削減そして近い内には消費税の見直し等と言ったお話もありますが暗くなる様なことはあまり考えず、今年も色々と考え進めて行かなくてはならない問題も沢山ありますの

で、皆様と一緒に良い方向へと進めて行きたいものだと思っています。

肢体協会と致しましても、昨年と同様一泊交流会・ふれあい広場・親睦交流研修会などの行事を予定致していますが、その他、会員の方々に喜んでいただけることに取り組んで行けたらと思っています。

そして、肢体協会の組織を大切に、会員の皆様のご理解ご協力をいただきながら頑張りますので、どうか14団体の会員の皆様達のご支援を宜しくお願い致します。

最後に皆様のご繁栄を心からお祈りいたします。

旭川精神障害者家族連合会

会 長 岩 田 淳

旭川市神楽2条4丁目1-12 ななかまど共同作業所
TEL 63 - 2331

1. 定期の家族交流会

原則毎月第3水曜日午後1時30分より、おびったに会場を準備し、家族の方の相談、語り合い、情報交換等の場を設けています。

2. 家族研修会の開催

(1)今年8月21日第6回旭家連の家族研修会を開催し、廃案直後になりましたが「障害者自立支援法案」の概要を中心に旭川市保健所職員のご説明を受けました。

(2)平成18年2月には、専門医師のお話を予定しております。

3. 機関紙「旭家連だより」の発行

年1回の発行ですが、10月10日発行しました。

4. 関係家族大会に参加

9月30日名寄市で開催された第31回道北地域精神障害者家族大会に、続いて10月6日帯広市での第39回北海道精神障害者家族大会に旭川市の福祉バスを利用して参加しました。



旭川市地域共同作業所連絡協議会

会 長 荒 川 繁 男

旭川市8条通18丁目右3号
TEL 45 - 0700

明けましておめでとうございます

皆様にはお元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、各行事や作業所の親睦・交流会など皆様のご協力を得ながら実施できたことを心より感謝申し上げます。

今年度も小規模作業所の運営には大きな不安がありますが、他の障害者団体と協力しながら、障害者が安心して毎日を過ごせるように頑張っていきたいと思います。

皆様のこの一年のご健康をお祈りいたします。

平成17年度の主な事業

5月18日(水)・・・第8回定期総会

6月29日(水)・・・リバータウン・バザール
～7月4日(月)

7月12日(火)・・・夏期親睦交流会

7月31日(日)・・・旭川市障害者スポーツフェスタに参加

7月・・・会報の発行

8月10日(水)・・・おびったまつりに参加

8月19日(金)・・・青空市
～12月3日(土)

10月 2日(日)・・・赤い羽根共同募金活動に参加

10月27日(木)・・・代表者・職員研究会

11月25日(金)・・・「障害者週間」記念事業
～12月3日(土)

(今後の主な行事)

1月 7日(土)・・・新年交流会

1月・・・会報の発行

2月・・・役員会

3月・・・監 査

旭川中途難失聴者協会

会 長 大 江 登 美 子

旭川市錦町18丁目
TEL/FAX 51 - 8937

当会は創立して今年で30年になりました。昭和50年の秋、北海道新聞の掲示板を利用し、仲間へ呼びかけました。その時集まった5人の仲間が私達の原点です。

当時は、喫茶店の片隅で紙に書いて回し読みする。今のように集える施設もない。OHPもない。協力者も居ない。難儀の日々を過ごしました。

何もない時代から、現在は、長年の活動が実り福祉も恵まれてきました。要約筆記の派遣もあり、

社会からの孤立を何とか防げるようになってまいりました。

本年の10月16日には、長年のご協力を頂いた方々へ、感謝の心を示したく、多くの関係者、仲間と共に創立30周年を祝いました。

聴覚障害の理解は、大変難しく、ゆえに、誤解されがちな私達ですが、少しでも理解者が増え孤立した仲間が居ないよう、今後も努力を重ねてゆきたい。と思っております。

新年を迎えお慶び申し上げます。障連協及び各障害団体の会員様には、当会としまして何かとお世話になりまして、大変有難うございます。昨年も国内外に自然災害、テロと暗いニュースがありました。私達も日ごろから一生懸命に生きております、せめて身近な所の災害に、会わぬように注意や努力をして行こうと思います。



旭川リハビリ友の会

会長 高津 修

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-8722

当会の17年度事業計画も、あと3ヶ月を残す時期となりました。計画に対しまして、今年は利用者が増えてきたと思われますが、福祉バスの配車割り当てが初めて6月、7月、10月の3回が利用出来なくなりました。日帰り温泉に現地の送迎バスを利用すると、昼食を兼ねることが条件になるため、一人当たり3,500円の費用が掛かり、会員の経費負担が多くなりましたが、少ない余剰金の中から会の補助金を出しまして計画通り実致しました。会員負担が多くなり参加率は低く会員に大変迷惑を掛けました。今後も期待通りにいくか不明のためバスの配車計画を見直してから、計画を変更しなければならぬという事が生ずると思います。脳卒中は半身マヒの障害であり、月例会の行事が仲間と行動することが一番のコミニケーションの場であり、また家

から外にでることのきっかけとなりますので、会といたしましても、実行することが最も重要に考えております。

17年度も今までに行ったことのない場所を1~2カ所と心掛け、5月は当会として初の「お花見会」、7月に十勝川温泉「カミホ口荘」、10月は丸瀬布温泉「マウレ荘」と新しい企画をいたしました。また8月にビールパーティーを開催し、一昨年よりも60~70人参加者が多くなり、盛況のうちに終わりました。また今年は「障連協」主催の、初の試みとして「おびった祭り」が実施されましたが、当会の会員の参加者が少なかったように思われます。18年度は、一人でも多く参加し「自分たちのお祭り」として認識を持ち盛り上げて行こうと思います。

言語の訓練としての「カラオケ」・機能回復訓練「水泳」・歩行訓練、計算訓練、考える事を含む「パークゴルフ」等で活動しておりますが、「歌と笑いは副作用のない薬」と言われておりますがまさにその通りです。会員におかれましても、脳卒中の再発防止または現状維持と以前よりチョッピリ良い方向へとなるように、日々の努力を怠らず毎日が楽しく元気に過ごしたいものです。

今では全国的に知られました「旭山動物園」ですが、8月に札幌脳卒中の会であります「北海道ストローク友の会」の皆様が来られました。当会といたしまして一部の会員で出迎えましたが、皆さん感動され



まして、来て良かったと会報に書かれていました。中にはオラウータンにオシッコを浴びせられた方がおりまして、一層忘れることの出来ない思い出となった事でしょう。教訓「猿類を見るときは、凛凛しい態度で見ること」と思います。

これからも障連協中心に協力しながら活動し、各会の発展をお祈り致します。

社団法人 旭川手をつなぐ育成会

会 長 峰 木 光 春

旭川市宮前通東4155番地30
TEL 37-9010

成年後見制度の勉強会を開く

知的障害者や老人認知症の方で判断能力にハンディを持つ方に、親である、子供である、というだけで法的行為の代理はできません。

この代理をできるのは成年後見人です。障害者の方の財産管理や身上監護も法的に認められた後見人や補佐人が日常的な行為を除いて重要な事項について、その代理権や解除権が認められています。

育成会では知的障害者を持つ親達が、親亡き後の障害者のために、成年後見制度の勉強会を2回ほど開いています。

最近では、悪徳商法の訪問販売や投資勧誘を行うなど、弱者にも狙いをつけてきております。浄水器や羽毛布団などを高額で買わされた場合には、後見人は解除権を行使して返金させることができます。

後見人になるには、家庭裁判所に申請して適任者を決めますし、事件が起されれば裁判所に相談できるメリットもあります。障害者や高齢者の社会参加が叫ばれる中で、成年後見人制度が普及されることを望んでいます。

旭川盲人福祉協会

会 長 村 瀬 稔 幸

旭川市宮前通東4155番地30
TEL・FAX34-6099

平成17年度上半期の活動については、全て計画通り実施され、その他の団体活動も積極的に多数の方の御協力・御参加により、盛大に推移したことに對し、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

それでは、平成17年度下半期の活動について御報告します。

■平成17年10月2日

札幌市かでの2.7において北海道視力障害者福祉連合会主催の全道視力障害者福祉研修大会が催され、当盲協会より約30名が参加しました。

■平成17年10月9日

旭川盲人福祉センターにおいて、当盲協会文化部主催の文化講演会が開催され、会員及び家族約40名が参加しました。

■平成17年10月13・14日両日

旭川パレスホテルにおいて、東北、北海道身障者

相談員研修会が行われ、当盲協会相談員7名が参加、当日各地方より総数180名が参加しました。

■平成17年10月22・23日両日

美幌市において、北海道身体障害者福祉協会主催の全道身体障害者福祉大会が開催され、旭川身障協会より41名、内当盲協会会員8名が参加しました。

■平成17年10月27日

旭川駅にて、北海道運輸局旭川支局主催による、交通バリアフリー教室が行われ視覚障害者関係として講師及びアドバイザーの2名を派遣、体験実習が行われた。

■平成17年10月29・30日両日

千歳市において、全道視力障害者球技大会が開催され当盲協会より25名が出場・参加しました。競技種目はサウンドテーブルテニス（盲人卓球）、フロアーバレーボール（盲人バレーボール）、ボウリングの三種目にエントリーし素晴らしい成績を修めてきました。

■平成17年11月13日

おびつたにおいて、旭川身障者肢体福祉協会主催の「ふれあい広場」に当盲協会より応援及び参加で多数の方が参加しました。

■平成17年11月20日

おびつたにおいて、障連協主催による、旭川市障害者球技大会に17・8名が参加しました。

■平成17年12月2・3日

障害者福祉週間に伴い、障連協主催の障害者週間記念事業に多数の会員の参加を予定しております。

■平成17年12月10・11日

増毛ホテルにおいて一泊の研修会及び忘年会を当盲協会厚生部企画により実施が予定されております。

■平成18年1月15日

エスタターミナルホテルにおいて、新年交礼会を予定しております。

■平成18年1月29日

エスタターミナルホテルにおいて、旭川身体障害者福祉協会新年交礼会に参加予定しております。

■平成18年2月中旬

倶知安町において、全道障害者冬季スポーツ大会に多数の会員の参加を予定しております。

以上、実施済みの行事と予定をお知らせします。

作業所巡り

“働く事の喜びを感じて” - 旭川市内には現在28ヶ所の地域共同作業所が運営されており、障害のある方々の権利と発達、地域生活を支援していますが、今号は4ヶ所の作業所での生き活きとした姿を取材しました。

障害者地域共同作業所

「花咲ポプラ共同作業所」

平成16年末に、出来たばかりの木造一部2階の共同作業所である。暖房・冷房更に、体調の悪い会員の休憩室まで、あらゆる面で近代的な設備は目をみはるばかりであります。『花咲ポプラ共同作業所』は、これからの共同作業所のモデルになるであろう。

作業所の名称由来など

「ポプラ」の木のように、真っ直ぐに伸びるように、と願って。

動機と創立年月日

1985年9月27日、就職の決まっていな、或いは、施設などに通っていない在宅の知的障害者のために、就労の訓練や生活指導を行う場として開設。

主な仕事の内容など

授産作業 チラシ折、箱折り、枠折り、シール貼り
資源回収 古新聞紙、雑誌、アルミ缶

どの仕事も、たくさんの収入にはなりませんが、仕事をさせてくれる会社や資源回収に協力してくれる皆さん方に感謝しながら、みんなで助け合いながら、一生懸命に取り組んでいます。継続した仕事を得ることができるよう、機会があればお願いをしています。

その他の特色など

朝から笑い声の聞こえる「明るく家庭的な作業所」
その他

昨年の9月で開設20周年を迎えました。

平成16年末に、プレハブの建物から現在の木造一部2階建ての広くて明るい作業所になり、利用者の皆さんも毎日笑顔で作業に精を出しています。

男性11人、女性1人で、元気な人が多いのでとても賑やかです。

今年の7月には、旭川手をつなぐ育成会が当番

となって、北海道手をつなぐ育成会の全道大会が旭川市で開催されますので、私達の作業所からも積極的に参加したいと考えています。

小規模作業所の行く末が心配ですが、これからも、地域の皆さん方に支えていただきながら、楽しく働き、仲良く生活していけるように頑張っています。

「花咲ポプラ共同作業所」

〒070-0901 旭川市花咲町1丁目

TEL & FAX (0166) 53-8433

障害者地域共同作業所

「とんとん作業所」

1995年(平成7年)11月3日に産声あげた障害者地域共同作業所「とんとん」。

今年でちょうど満10周年を迎える事ができました。障害を持つ8人の仲間と準備会を作りました。

「近所の子供たちが気軽に来られるような菓子屋をやろう」

「子供たちに優良アニメも見せてあげたいね」

「これから、パソコンの時代が来るからワープロではなくてパソコンでのサービスをはじめよう」

「いつでも、誰でも寛いでもらえる洒落た喫茶店にしましょう」

等々、実現可能かどうかは別にして、財政不安もありましたが、それ以上に強い「思い」がありました。

親切な大家さん夫婦、だ菓子の陳列台を作ってくれた友人、立派なカウンターを作ってくれた家具職人、素敵な壁紙を貼ってくれた表装店の社長さん、とんとんのシンボルマークを作製してくれた友人、そのシンボルマークの看板を作ってくれた友人、知人からカンパを集めてくれた八百屋の



店主、ほかにもあげればキリのないほど多くの方達の応援を得て開設にこぎ着けました。

10年経っても、当初の「思い」が実現できていない事もまだまだあります。これからまだまだ時間がかかるかも知れませんが、「思い」を実現させていきたいです。

= 代表の福嶋剛さんに伺いました =

貴方は『とんとん』の仲間どんな事に気配りしてますか。

- ・無理なく仕事に元気に通えるよう時間帯など、柔軟に対応しています。

旭川市は共同作業所の組織を改善する考えだが、貴方はどう思いますか。

- ・現状通りに運営できることを望みます。

「とんとん作業所」

旭川市3条通18丁目 左10号

T E L (0166) 39-2450

障害者地域共同作業所

「旭川アルム作業所」

2005年10月26日 東鷹栖のアルム共同作業所におじゃましました。

この日は水曜日で、エアロビクスの日でした。荻野先生の指導のもと、バランスボールを使ったエクササイズで、ボールにのっかって、手をあげ、足をあげ、つるりんとすべりおちながらも、スタッフとともにボールと格闘していました。

代表の榊澤さんにお話を聞きました。

平成7年4月に利用者5人でスタートしました。今は「アルム作業所」15人、「山のアルム」(畑仕事中心)15人の定員でやっています。障害を持った人が、身近にいたこともあって、福祉セミナーなどによく参加していました。作業所のことや、障害のある人たちの生活について、関心があったんだろうなあ。で、何年後になったけど作業所を開いたんですね。と、きっかけを話してくださいました。



うちは、他の作業所さんとは、ちょっと違うんですね。とおっしゃっていました。?????何のことかときくと、きっちり仕事をして、高い工賃を保証することをめざすというよりは、とにかく明日もまた来たいと思えるように今日を目いっぱい楽しく過ごせる場所にしたいんだ。と・・・なるほど、定期発行している きままなアルムの風だよりの10月号をみせてもらって、動物園見学、科学館見学、ミニ運動会に親子バス旅行と行事がいっぱいでした。でも、仕事もちゃんとしてますよ。

今日はたくさんのお話ありがとうございました。

旭川アルム作業所

旭川市東鷹栖3条2丁目636-241

T E L (0166) 57-0001

障害者地域共同作業所

「旭川コスモス共同作業所」

11月4日、旭川コスモス共同作業所におじゃましました。しらかば作業所から分かれて、旭川で2番目にできた精神障害者のための作業所です。

この日は年末に向けて贈答品の熨斗貼りや、タオルの袋詰めなどの作業の真っ最中でした。また下請けなどの作業の合間をみて、オリジナルの製品も作っています。このときは製品は出荷した後で残っていなかったの、試作品をみせてもらいました。毛糸でつくったポンポンのマスコット人形で、かわいい製品でした。

現在、在籍は26名ですが、病気とつきあいながらの生活です。常時通ってこれるのは15～16名です。家に閉じこもっているよりは作業所にきて、仲間と会うことで、良い刺激を得て、助け合い、自信をつけて、社会復帰、社会参加を目指してほしいと思います。と、スタッフのお話でした。

「コスモス共同作業所」

〒070-0021 旭川市東1条3丁目2番4号

T E L & F A X (0166) 24-6348



常任理事会の各部活動報告



事業部

担当常任理事
佐藤 忠公

事業部では、本年度初の試みとして、昨年8月、「おびったまつり」を開催いたしました。障害者福祉センター「おびった」がオープンして3年目が過ぎ、「おびった」や「おびった」を利用する様々な障害者について、地域の方々にも徐々に理解されて来ましたが、更に深くご理解いただき、「おびった」に集まる障害者と近隣市民とが共に、「誰もが住みやすい街づくり」を進めるためのきっかけづくりの場となることを願って実施しました。

第1回目の今年度は、計画から実施までの期間が短く、十分な準備を行うことが出来ず、皆様には大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。しかし、「おびった」周辺の町内会や開発局等、国の機関はじめ、市民の皆様のご協力のおかげで開催することができました。更に、まつり当日は幸い好天にも恵まれ、2,000名を越える参加者を得て、盛況のうちに無事終了することができました。障連協役員はもとより、多くのボランティアの皆様の壮大なご協力にあらためてお礼を申し上げます。

尚、この事業は今後も継続し、障害者と市民との交流を通し、街づくりの一助となることを願って実施して行きたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



文 化 部

担当常任理事
鈴 木 勲

文化部主催「ヘルシークッキング」 健康と美味しさを追求して

9月25日(日)におびった調理室で文化部主催による第1回料理教室がひらかれました。

参加者は、鈴木勲部長も含め各団体から15名。

講師は、道北勤医協一条通病院管理栄養士の柴山祐子さんでした。

メニューは秋の季節らしく、さつまいもやきのこのたくさんはいった炊き込みご飯、鮭のきのこあんかけ、えのきだけの明太子あえ等盛りだくさんの内容でした。

車椅子の仲間達も低い調理台があるために、洗いものや調理が容易にできました。料理が初めて

という男性もいましたがなかなか楽しそうでした。

時間通り、出来上がって、やさしい笑顔の柴山さんの指導もあってみんなで「いただきまーす」。どれもおいしかったです。そして満腹！！

次のヘルシークッキング教室にもたくさん参加してください。お待ちしております。(文化部)



ヘルシークッキング お料理レシピ

- 鮭きのこあんかけ -

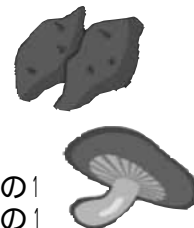
材料(4人分)

- ・ 鮭切り身 4枚…4切れ
- ・ しめじ 1パック…1パック
- ・ 生しいたけ…小8枚
- ・ えのきだけ…1袋…1袋
- ・ 調味料
 - だし…カップ4分の3
 - 酒…大さじ1
 - みりん…小さじ2分の1
 - 塩…小さじ2分の1
 - 醤油…小さじ2分の1
- ・ ぎんなんの缶…12粒
- ・ 水溶き片栗粉
 - 片栗粉…大さじ1
 - 水…大さじ1
- ・ 塩…少々(鮭用)
- ・ 小麦粉…大さじ2
- ・ サラダ油…大さじ2



材料(4人分)

- ・ 米…カップ2と2分の1
- ・ さつまいも…200g
- ・ 生しいたけ…5枚
- ・ えのきだけ…1袋
- ・ しめじ…1袋
- ・ だし汁
 - だし…カップ3
 - 塩…小さじ2分の1
 - 醤油…小さじ2分の1
 - 酒…大さじ1
 - みりん…大さじ1



- えのきだけの明太子あえ -

材料(4人分)

- ・ えのきだけ…3袋(300g)
- ・ からし明太子…2分の1腹(60g)
- ・ 調味料
 - 酢…小さじ2
 - 酒…大さじ1
 - 醤油…小さじ2分の1



- タピオカ入り野菜コンソメスープ -

材料(4人分)

- ・ タピオカ(小)…大さじ3
- ・ にんじん…3分の1
- ・ たまねぎ…2分の1
- ・ キャベツ…3枚
- ・ 固形スープの素…2個
- ・ 塩…少々
- ・ コショウ…少々





スクラップ

2005年11月7日 福祉新聞

週刊

福祉新聞

障害者自立支援法が成立

細部は政省令で規定

06年4月施行
利用者負担は原則1割

「障害者自立支援法案」が十月三十一日の衆議院本会議で、自民党と公明党の賛成多数で可決、成立した。身体・知的・精神の障害種別に分かれた現行施策を一元化し、サービスクラスにかかる費用を義務的経費化する一方、利用者に原則1割の定率負担を導入するもので、二〇〇六年四月から順次施行される。支払い能力に応じた利用者負担の仕組みを現行制度から引き継ぐ民主党「障害者自立支援・社会参加促進法案」は、共産党と社民党の支持を得たが、賛成少数で否決された。

障害者自立支援法案は与党議員の賛成多数により、十月二十八日の衆院厚生労働委員会でも可決され、会期末の迫った三十一日に衆院本会議で成立した。

法案の可決に際し、参議院の厚労委員会では二十三項目の付帯決議（留意事項）が付けられたが、衆院

では新たな付帯決議や法案修正は行われなかった。ただし、衆院厚労委員会の理事会が①前国会での付帯決議の内容を政省令や法施行に当たり十分尊重すべきの政省令事項や運営方針を社会保障審議会障害者部会で審議する際は、そのつ

直ちに衆院厚労委員会の理事会に報告すること。各党理事が意見しフォローアップする——と政府に申し入れをした。

自立支援法案は、障害者施策に必要な予算の確保に国が義務を負うことを柱にして、利用者に原則1割の定率負担が求められるため、障害者や家

族の間では不安が広がっている。負担増が結果的に利用控えにつながらないかとの不安も強い。

そうした不安を汲み、国会では踏み込んだ質問に答えていたが、厚労省も「政省令の中で検討する」との答弁にとどまっている部分が多く、付帯決議や理事会の申し入れは、今

率負担の考え方が馴染まない」「当事者の声を聞いて徹底審議すべき」といった議論が続いたが、成立して尾辻秀久・前厚労大臣は「適正な施行に努力する」とあいさつした。

しかし、どのような内容で法が施行されるかは政令や省令の中身にゆだねられているのが実態。厚労省も国会では踏み込んだ質問に答えていたが、厚労省も

「自立と地域移行が本筋に進むか」、また「そもそも障害者施策に定

後のことに配慮したものだ。障害者や家族、地方自治体からは今後さらに「早く基準を示してほしい」「自立生活が可能な基準にしてほしい」といった要望が高まると見られる。

なお、採決に当たり、政府案に明確な反対姿勢を取ってきた野党各党は「当事者不在の政府案は障害者の生活を踏みにじるもの」（民主党）、「基本的人権であるコミュニケーションや移動を利益として負担を求めれば障害が重くサービ

スが多く必要な人にほど負担を強いることになる」（共産党）、「食事やトイレ、入浴など生きる上で最低限のことを金で買わせるのは根本的な間違い」（社民党）などと強く抗議した。

一方、自民党と公明党は民主党案を「将来像を示さず課題を先送りし、非現実的なもの」と批判した。

ブックを読む



障害者ら最後の訴え

衆院厚労委採決直前に1200人

障害者自立支援法案が衆議院厚生労働委員会でも可決された十月二十八日夕刻、約千二百人の障害者らが国会議事堂に向かって「当事者や地方の不安と疑問に応えないままの強行採決に抗議する」と声を張り上げた(写真)。DPI日本会議、全国自立生活センター協議会、ピープルファーストなどによる全国大行動実行委員会が呼びかけたもの。

委員会を通過した法案の成立は確定したと目されるため、この日の採決が特に重要とあって、当事者団体や家族団体など関係者が地方からも駆けつけた。

議事堂前ではパソコンを持ち込み、国会審議のインターネット中継をにらみながらの行動。採決が行われる時まで「私たちのことを私たちが決めないで」

支援法案可決に
落胆や怒りの声

と訴えたが、午後四時半ごろ、法案が可決された際には落胆の声や怒りの声が相次いだ。

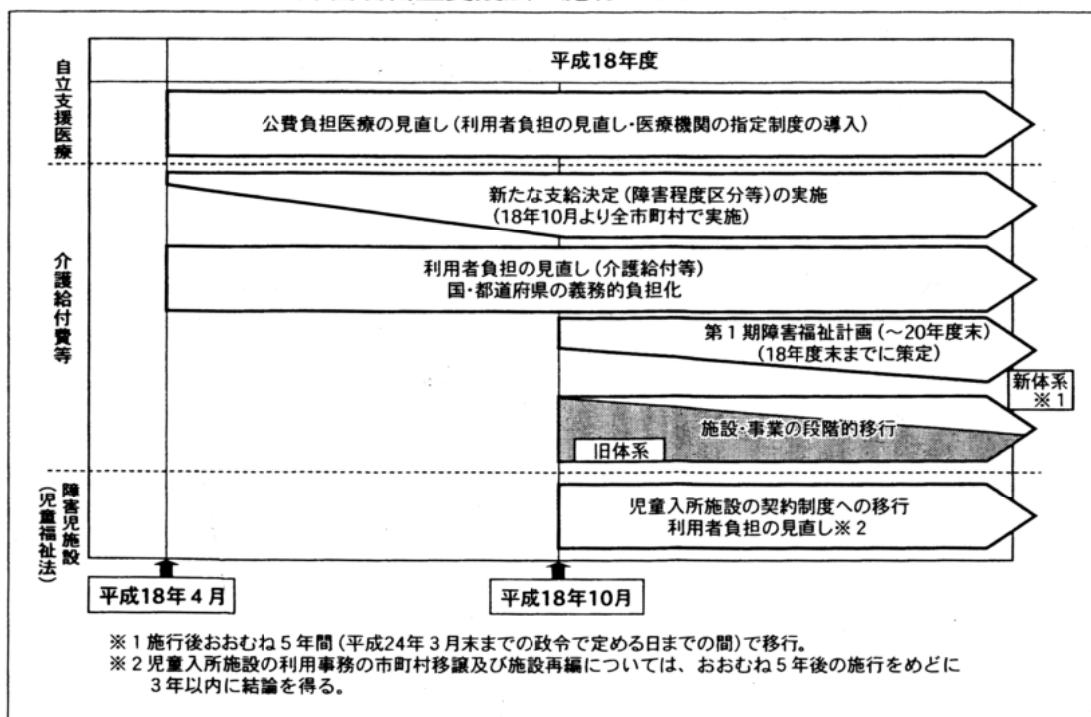
一行は「国会審議の中で厚生労働省は『今後、政省令の中で検討する』と繰り返しばかりで、これまで利用してきたサービス水準や生活が維持できるのかという障害者の不安に全く答えられていない」と不満を語っている。



2005年11月7日 福祉新聞

2005年11月14日 福祉新聞

障害者自立支援法の施行スケジュール





スクラップ

2005年12月1日 北海道新聞

道 新 聞

2005年(平成17年)12月1日(木曜日)

第 2

70—74歳 負担2割 乳幼児軽減を拡大 75歳以上に新保険

医療制度改革が決着

政府、与党は三十日、来年度の医療制度改革大綱案をまとめ、新政策の内容が決着した。来年度から患者の窓口負担を現役並みの所得がある七十歳以上で二割から三割に、二〇〇八年度から一般的な所得の人も七十—七十四歳は原則一割から二割に引き上げる—など、高齢者を中心に公的医療保険の在り方を見直す。これに生活習慣病予防や長期入院の是正による中長期的対策と併せ、医療費の伸びを抑制する。

(解説3面、関連記事2、4面に)

このほか、世代間の負担を公平化するために、市町村の広域連合が都道府県単位で財政運営する、七十五歳以上加入の新保険制度も創設する。これを受け、政府は十二月の来年度予算折衝で、公的保険から医療機関や調剤薬局に支払われる診療報酬の改定作業に入る。大綱は「引き下げの方向」と明記。〇二年度のマイナスイ・七%以来となる、過去最大の下げ

このほか、世代間の負担を公平化するために、市町村の広域連合が都道府県単位で財政運営する、七十五歳以上加入の新保険制度も創設する。これを受け、政府は十二月の来年度予算折衝で、公的保険から医療機関や調剤薬局に支払われる診療報酬の改定作業に入る。大綱は「引き下げの方向」と明記。〇二年度のマイナスイ・七%以来となる、過去最大の下げ

上を一律二割とするよう要求。最終的に六十九歳までは現行維持とする折衷案で妥協した。

このほか、療養病床に入院する七十歳以上の食費と居住費の自己負担額、高額療養費の負担限度額引き上げなどが決まり、患者の自己負担が重くなる。

一方、現在三歳未満となっている乳幼児の窓口負担軽減(二割負担)の対象を〇八年度から小学校入学前まで拡大するとで合意した。

中長期的対策では「治療重点の医療から、疾病予防を重視した保健医療体系への転換」を図る。生活習慣病患者や予備軍の減少率などの数値目標を「医療費適正化計画」で定めたり、医療保険の運営者に健康診断や保健

指導を義務付ける。厚生労働省は今回の改革で、診療報酬の引き下げ分を除き、二五年度の医療給付費は現行制度を続けた場合に比べ、中長期的対策で六兆円、短期的対策で一兆円以上減つて、四十九兆円程度に抑制される、と試算している。

改革大綱案骨子

一、七十歳以上七十四歳以下の窓口負担を一般所得者は現行の一割から二割に引き上げる

一、生活習慣病予防対策に取り組み
一、七十五歳以上を対象とした新たな高齢者医療保険制度を創設する
一、療養病床の七十歳以上の食費と居住費を自己負担とする

一、高額療養費の自己負担限度額を引き上げる
一、来年度の診療報酬改定では、経済動向を踏まえ引き下げる

一、窓口負担が二割となっている対象時期を乳幼児(三歳未満)から小学校入学前まで拡大する

ブックを読む



障害者の立場で考えて

自立支援法に 批判の声続々

旭川でシンポ

障害者週間（三十九日）初日の三日、旭川市障害者週間記念事業のシンポジウムが旭川市障害者福祉センター（おびつた）で開かれた。「障害者に大きな負担を強いる」との指摘を受けながら成立、来年四月に施行される「障害者自立支援法」について批判の声が相次いだ。
（中橋潤一郎）

旭川市の主催。市内十五団体でつくる特定非営利活動法人（NPO法人）旭川障害者連絡協議会が同市の委託を受けるかたちで開催している。

シンポジウムには同市内の障害者やその家族、関係者ら約三百人が出席。自らも車いす生活を送るDPI（障害者インターナショナル）北海道ブロック会議の西村正樹議長が基調講演した。

西村議長は、同法施行後は、支払い能力に応じて負担する現行の支援費制度から、原則サービスの一割を利用者が負担する「定率負担」（応益負担）に転換する。と、公正公平な制度をどう構築していくか悩んでいる」（旭川市）など新制度に対する疑問と不満の声が多く出た。

2005年12月4日 北海道新聞

2005年8月1日 北海道新聞

障害超え 250人一生懸命

円盤投げ、玉入れ… 旭川でスポーツフェスタ

旭川市障害者スポーツフェスタが三十一日、旭川市神楽の大雪アリーナで開かれ、二百五十人が工夫を凝らした競技に挑み、交流を深めた。

市内の在宅を中心に、さまざまな障害がある人たちが参加。大学や専門

学校の学生五十人がボランティアとして運営を支えた。

旭川身障者肢体福祉協会の丸山周三さんが「ハイドルを乗りこえ、チャレンジ精神で一生懸命戦います」と選手宣誓をして始まった。



障害を超えて競技を楽しんだスポーツフェスタ

障害者自立支援法に関して不満の声が噴出したシンポジウム



スクラップ



園児による和太鼓演奏なども披露された「おびったまつり」

おま ひつたり

障害者と住民が交流

園児が和太鼓演奏披露

障害者と障害者のない市 前通東の旭川市障害者福祉（NPO法人）旭川障害者連とたちが湖委やカラオケセンタ―駐車場で開か

ケ人会などを通じて交流 した。する「第一回おびったまつり」が、旭川市特定非営利活動法人（N）の

を広げよう」と企画した。

地元の啓明小の児童によるブラスバンドやねむのき保育園の園児による和太鼓演奏など多彩な催しが行われ、訪れた市民や障害者らが「かわい」「うまいね」など声を上げていた。

会場には市内の障害者福祉施設などによる二十店の出店も並び、入所者手作りの木工品や農産物が展示即売された。木製のベンチを購入した市内の主婦、小林佳枝さん（60）は「デザインもかわい、値段もお手頃。称・きたのまち」が開設

振り出し物ですね」と満足を口に話した。

また同日、同センター

内に自閉症など発達障害者の相談機関「発達障害者支援地城センター」（愛称・きたのまち）が開設され、開所式が行われた。（原田隆立）

2005年8月11日 北海道新聞

2005年11月25日
北海道新聞

「おびった」でイベント続々

きょうから 授産製品を展示即売
3日 来月 映画上映やシンポ

「障害者週間」（十一月三日〜九日）に合わせ、旭川市障害者福祉センター「おびった」（富前東）で関連行事が繰り広げられる。授産製品の展示即売会が、二十五日に始まるほか、十一月三日は映画上映会や「障害者自立支援法」をテーマにしたシンポジウムが予定されている。

を販売する。

一日午後一時からのシンポジウムには障害者インタ―ナショナル（DPI）日本会議の西村山樹副議長が「社会保障はこう変わる」と題して基調講演。その後、旭川市内の医療関係者、障害者ら四人が「障害者の今後」を語り合う。

また同日午前十一時から、言葉の通じない教師と児童の交流を描いた坂口廉二氏の映画「機関車先生」（〇〇四年）を上映する。

いずれも入場無料で事前申し込みも不要。問い合わせは旭川障害者連絡協議会 ☎0166・31・2536へ。

ブックを読む



2005年(平成17年)11月21日(月曜日)



果敢にシュートをする体験会参加の小学生ら

アイススケー ジ旭川で親子ら体験会

2005年
11月21日
北海道新聞

トリノ・パリンピックに向けたアイススケージホッケー日本代表の最終選考合宿が行われている旭川市の旭川大雪アリーナで二十日、市民対象の体験会が開かれた。小学生や親子ら約二十人がスレッジ(そり)に試乗、選手から直接指導を受けるなど交流した。

(長谷川賢)

北海道ベアーズと旭医 手は「誰でも楽しめるス大アイスホッケー部が協 ボーツなので実際に体験力。参加者はスレッジに してもらい一緒に遊べる足を固定し、かき付きス 仲間が増えるのはうれしティックを両手に持つて い」と話した。

父親と一緒に参加した

旭川在住の代表候補ゴ 札幌市厚別区の間宮千裕ールキーパー永瀬充選手 ちゃん(六)は「転ばずに(そり)を相手にバックを打 滑れて面白かった」、旭ち込み、果敢にシュート 川市神楽岡小六年の宗方周平君(二)は「真つすぐ滑るのは意外と簡単。でも曲がる時にバランスをとるのが難しかった」と話していた。

合宿最終日の二十三日には同アリーナで紅白戦が行われる。

トリノパリンピック
がんばれ
永瀬

障害者スポーツに汗



「ボッチャ」という競技で玉を転がす参加者

「うまくできた！」笑顔

球技3種目に2百人挑戦

旭 川

障害者にスポーツを楽 市の主催。弾みにくい フラインクデイスに しんでもらう旭川市障害 特殊なボールを転がして 参加した市内豊岡の高橋者球技大会が二十日、同 的球にどれだけ近づいた 竹子さん(六)は「十回投市障害者福祉センター かを競う「ボッチャ」や、 けて最後の一回で輪をく「おびつた」で開かれ、 円盤を投げて輪をくぐら ぐらせた。難しいけど、介護支援者を含め約二百 せる「フラインクデイス だんだんうまくできるよ 人が心地よい汗を流し 夕、卓球の三種目が行 うになった」と笑顔で話 していた。(長谷川賢)



スクラップブックを読む



2005年(平成17年)11月25日(金曜日)

2005年11月21日 北海道新聞

トリノオリンピック
がんばれ 永瀬

3大会連続出場 意気込み、思いは

トリノオリンピックへ向け、旭川市内で十九日から二十三日までアイズレッジホッケー日本代表の最終選考合宿が行われた。長野、ソルトレークに続き、三大会連続の出場を確実にした旭川在住のゴールキーパー(GK)永瀬充選手(三三)に、意気込みと思いを聞いた。

(原田隆幸)

自分が一点もやらなければ、負けることはない。——地元・旭川の支援その仕事をやるだけ。本に支えられた合宿でし当に楽しみです」

——合宿中は強化試合「何年も前から旭川で二試合で計五失点でした。合宿をやりたいと思っていました。僕の思いを伝えたいところ、たぐさんの「簡単なシュートを止めたところ、たぐさんのめられず、失点した場面人が応援してくれた。お

強豪と渡り合える自信

応援に感謝「金」で恩返し

「長野では、とにかく無我夢中でした。ソルトレークで少しプレイのかたちが覚えてきました。が、外国の強豪とは目に見えぬ差を感じました。今回は監督の戦術も浸透し、強豪と同じ土俵で戦える自信があります。大会は、わずかな差が勝敗につながる面白い展開になると思います。GKのせん。三月までの課題で

かげで合宿中はしっかりし、氷上での練習に長い睡眠や食事が取れました。時間、専念できました。——本番へ向け、今後月末には金メダルを持つ

代表チームの今後の主な活動日程は次の通り。
▽強化合宿(十二月八日、十一月五日、二十三日、二十六日)▽シカゴ遠征(十二月二十六日—一月三日)▽トリノオリンピック(三月十一—十九日)



トリノへの思いを語る永瀬選手

も予定がいっぱいです。「僕が今後すべきことは、トリノへ向け百パーセントの調子に仕上げることです。応援してくれて旭川に戻り、恩返しをしようと思います」

障連協活動日誌

2005年7月～11月

実施日	事業名及び活動内容	実施日	事業名及び活動内容
6 28	旭川地方気象台総務課職員来訪	8 25	旭川市水泳教室
1	「おびったまつり」会場係打合せ	26	旭川市水泳教室
2	「おびったまつり」 アトラクション担当打合せ	27	三役会議
5	国土交通省北海道運輸局 旭川運輸支局職員来訪	9 6	岩見沢赤十字奉仕団来訪
5	「おびったまつり」 アトラクション担当打合せ	13	理事会
6	「おびったまつり」 食品販売係担当打合せ	22	広報部委員会
9	管理と事務局打合せ	22	「おびったまつり」反省会 (パレスホテル:40名参加)
12	七宝焼き矢板先生と打合せ	24	中間監査
14	応益負担に反対する緊急集会 (体育館:650名参加)	25	文化部 料理教室(調理室:13名参加)
7 14	理事会	27	三役会議
20	「おびったまつり」 食品販売係担当打合せ	10 1	札幌市白石区東白石民生児童委員協 議会より代表者来訪
20	旭川市科学館 内覧会出席	2	ポッチャ教室 (体育館:20名参加)
20	「おびったまつり」啓明小打合せ	8	第25回道肢連大会研修会参加
21	「おびったまつり」 アトラクション担当打合せ	14	三役会議
23	旭川市科学館 オープニング出席	14	第1回障害者週間記念事業実行委員会
23	スポーツフェスタ全体会議	16	旭川中途難失聴者協会30周年記念会
26	旭川福祉園と打合せ	18	入札指名業者選考委員会
27	「おびったまつり」実行委員会	25	理事会
30	スポーツフェスタ出演者の練習	11 5	北海道作業療法学会 旭川地域共同作業所作品展示・販売
31	スポーツフェスタ (大雪アリーナ:439名参加)	6	北海道作業療法学会 旭川地域共同作業所作品展示・販売
8 2	介護高齢課いきがい係阿部氏来訪	9	障害者週間記念事業企画検討委員会
2	マダム・ケロコさん来訪 (FMリバー パーソナリティー)	10	旭川市障害者球技大会打合せ
10	「おびったまつり」	17	理事会
12	介護高齢課いきがい係阿部氏来訪	17	旭川市障害者球技大会実行委員会
23	旭川市水泳教室	20	旭川市障害者球技大会 (体育館:174名参加)
24	旭川市水泳教室	22	障害者週間記念事業実行委員会
		29	共同事務室机配置変更
		30	広報委員会



事務局だより

■ 事務所（「おびった」3階）
〒078-8329 旭川市宮前通東4155番地30
電話・FAX 0166-31-2226

各団体の皆様におかれましては、日頃の忙しい中お手伝いを頂き誠に有り難うございます。おかげ様で、6月と8月の水泳教室、7月のスポーツフェスタ、初めて取り組みました8月の「おびったまつり」、今、振り返ってみますと、あの暑い日、具合の悪くなる方も無く無事終了、本当に良かった。「ホッ」とする間もなく、9月の料理教室、10月のボッチャ教室、11月の球技大会、12月の障害者週間記念事業とめぐるまじい事業にご協力いただきました。

今後の事業としては、1月はフライングディスク教室、2月はグランドゴルフ教室とあり、また新たな事業として、「おびった」の運営に関わる利用向上委員会と、利用者懇談会を立ち上げます。そして遅れましたが、昨年12月6日に共同事務室の机配置変更も無事終わることが出来ました。これもひとえに各団体のご御協力と感謝致しております。

会議用の広いスペースも確保出来ましたので、各団体の活動の場所として活用して頂ければと思います。

ご利用についてはますます混雑が予想されますので、相談室１・相談室２・共同事務室（会議室）の利用予定日については、お手数ですが事前に障連協事務局へお申し込みを頂きたいと思います。

今後も各団体の活躍を祈念すると同時に当
法人事務局への御協力の程よろしくお願い致
します。

=== 今後の行事予定 ===

○障害者スポーツ教室

1 .フライングディスク教室

日時：平成18年1月22日（日）

13:30 ~ 16:30 予定

場所：おびった体育館

人数：30名程度

2 .グランドゴルフ教室

日時：平成18年2月19日（日）

13:30 ~ 16:30 予定

場所：おびった体育館

人数：30名程度

集編 後記

広報部が『障連協にゆーす』を発行して早くも、第6号を数えることになりました。

後記 今年度の障連協各部会の活動は、めざましく充実してきました。総務・事業・文化・スポーツ・広報の各部門が自発的な事業を行いました。殊に第1回の『おびった』祭りの開催に際しては、福祉センター周辺の皆様にご協力を戴いたことは、今後の障害者福祉センター『おびった』の運営管理に大変な自信と勇気を

つけてくれました。

反面、国会は、年度始めの『応益負担』に始まって、障害者自立支援法が設立され、また平成18年4月から施行される、障害者福祉サービスと医療費の1割負担が導入されることになりました。旭川市主催の『障害者週間』記念事業でそれらに関するシンポジウムが行われました。所得の少ない、障害を持った社会的に弱い立場の仲間の集会に参加して、『怒りの声』を支援しましょう。

（広報部 篠田）

NPO法人 障連協にゅーす 第6号

- 発行日 / 2006年1月10日
■編集 / NPO法人 旭川障害者連絡協議会
■発行者 / 理事長 峰木 光春
■住所 / 旭川市宮前通東4155番地30
障害者福祉センター「おぴった」3F
■電話 / 0166-31-2226
■印刷：障害者地域共同作業所「かがやき工房」〒070-0035 旭川市5条通5丁目1690-1 TEL・FAX 29-1294